津久井やまゆり園事件から10年・・・想うこと

あと2日で、津久井やまゆり園事件(相模原障害者施設殺傷事件)から10年の節目を迎えます。当時、中学生以下だった世代の方たちは、あまり記憶に残っていないかもしれないので、事件のことを触れておきたいと思います。

事件は7月26日(火)の未明に発生しました。その日、僕は朝早く起きる日だったので、寝ぼけた状態でテレビを観ていました。すると、いつもとは違う雰囲気の報道がされていました。空撮で旋回しながらある施設が映し出されて、救急車と数多くの救急隊員の姿が見えたので、ただ事ではない事件が起きたと直感でわかりました。

時間が経つに連れ事件の詳細が報道され、信じられないようなことばかりが次々と明るみになっていきました。

例えば、『**障害者施設で入所者19名刺殺、入所者・職員計27名が重軽傷**』『**犯人は事件が起きた施設の元職員**』『**犯人の「障害者は生きていても仕方がない」「障害者は不幸を作ることしかできない」という衝撃発言**』などでした。

事件直後は、命を奪われた方達と同じ障害当事者として恐怖を感じ、買い物に出るのでさえ恐怖を感じました。すれ違う世間の人達の視線が、障害者である自分のことを犯人と同じように思っているように感じていました。

コロナ禍が始まった2020年1月から裁判員裁判が横浜地方裁判所で行われ、死刑判決が言い渡されました。僕は2月17日の裁判を傍聴しました。当時、被告人だった植松被告は、どこにでもいる青年のように見えました。あれほどの凄惨な事件を引き起こすようには見えませんでした。

しかし、命を奪われた美帆さんのお母様の意見陳述がありましたが、まるで他人事のように聞いている植松被告の態度や、裁判中頻繁に出入りする記者の動きを気にしていたりと、自身が起こした重大な事件だと言うことを真摯に受け止めているようには見えませんでした。しかも、美帆さんのお母様の悲痛な訴えにも何も感じてないように見えました。

この事件は植松被告の死刑と言う形で幕引きになっています。最終的に死刑になるのは、個人的に一定の理解はできますが、他にも重要な問題があるにも関わらず、拙速に死刑判決を行ったように感じたと同時に、植松死刑囚だけの問題ではないと感じました。

この事件は「障害者の事件」と受け止められているような気がしますが、僕は障害者だけの問題ではなく、社会全体の問題であり、一般社会でも起きうる事件だと思っています。実際に無差別に人を殺そうとするような事件が起きています。

東日本大震災もそうですが、津久井やまゆり園事件も風化させてはならないと考えています。なぜなら、それは他人事ではなく、みんなの問題だからです。

ぜひ、ネットで津久井やまゆり園事件のことを調べてみて欲しいと思います。そして7月26日は可能な範囲で、命を奪われた方たちのために黙祷を捧げていただけたらと思います。

2026年7月24日（金）

自立生活センター　自立の魂
～略して じりたま！～
代表　磯部　浩司